

北海道の元気! NPO訪問

32 NPO法人 さっぽろ福祉支援ネットあいなび

文・加藤知美

福祉移送サービスで交通弱者をサポート 自ら運営する地域交流サロンの拡充を構想

◇ 福祉移送の団体として出発、生活支援も手がける

札幌市南区の藻岩下地区、石山通から山側に少し入ったところにある「NPO法人さっぽろ福祉支援ネットあいなび」の事務所を訪ねた。一軒家というにはやや大きな鉄筋コンクリート三階建ての建物だが、一歩入ると、にぎやかな笑い声や、時に赤ちゃんの泣き声がひびく。駐車場には、車いすマークのステッカーが貼られた車が並ぶ。あ

いなびは福祉移送事業の活動団体として五年前に発足した。事務所では、移送を担当するボランティアスタッフが常駐するほか、簡単な住宅改修などさまざまな生活支援を引き受けている。赤ちゃんの泣き声がするのは、地域の誰もが自由に出入りできる地域交流サロン「くるみな」を運営しているからだ。くるむ・包むの「くる」と、アイヌ語で笑顔を意味する「みな」から名付けられた地域交流サロンは、赤ちゃんからお年寄りまで地域の人がおしゃべりをしたり、ご飯を食べたり、講座に参加したり、サークル活動をするなど自由に過ごすことができる。パソコン教室やアロマ教室も人気だ。また、事務所の一角には子どもための演劇鑑賞団体の事務スペースも設けられている。理事長の下川原清美さんは、札幌市消防局の元救急隊員・救急救命士だった。救急業務の中で、緊急を要しないと思われる人まで救急車を呼ぶケースが多いことに問題を感じていた。命を救うために一刻も早く現場に急行しなければならぬ仕事に支障をきたしていたのだ。しかし、高齢化社会を迎えた札幌には、外出困難な交通弱者の方々が急増していることも事実だった。そこで、退職後、仕事の経験をいかして福祉移送の活動を立ち上げた。救急車を呼ぶような緊急事態で

はないが、タクシーでは経済的に厳しいという人たちが福祉有償運送サービスを提供すれば、消防局の救急体制の充実にもつながると確信したからだ。

車いす対応やストレッチャーを装備した車両など現在は七台体制で、障がい者や高齢者など外出が困難な人々の入院・転院・通院のほか、買い物や旅行などをサポートしている。介護保険の適用外だが、会員制で運営され、福祉有償運送法の基準によりタクシーの半額程度の料金で利用できる。入院生活を送り緩和ケアの治療を受けている余命わずかの患者さんが、遠く離れた自宅へストレッチャー車両で日帰りし、家族やふるさとの仲間と楽しいひとときを過ごしてもらえたことなど、スタッフにとって印象深い移送も多い。

あいなびの提供するサービスのもうひとつの柱は、生活支援事業だ。ヘルパーや建築士、福祉住環境コーディネーターなどの有資格者もおり、病院の付き添いや買い物代行、入退院時のお手伝いなどを行うほか、手すりをつけるなど簡単な住宅改修や庭仕事も手がける。また、移送サービスの



車いすでの外出も気軽に

ついでに除雪作業をすることもあるという。介護保険の対象とならない細やかな生活支援を、可能な限り要望に応じて有料で行っている。

◇ 活動支えるボランティアスタッフと旧縁の協力者たち

現在、常勤スタッフは一〇名。交通費程度の金額が支給されるとはいえ、全員がボランティアだ。サロンのスペースで開催される教室の講師もサロンで提供される食事をつくるのもボランティアアベースとなっている。団体設立から徐々に人が集まってきた結果である。

また、活気あふれる事務所の雰囲気をつくる常勤メンバーが団体の理事になっているので、「毎日が理事会のよう」と下川原さんは笑う。温かい人間関係ができていのも下川原さんの人柄に引き寄せられて



地域交流サロンで楽しく食事会

集まったメンバーが多いからだろう。公務員として仕事をしてきた頃から、ボーイスカウト活動や福祉ボランティア、町内会などの地域活動に熱心だった下川

原さんは、人の繋がりを大事にし多方面からの信頼関係が出来ていた。また、古巣の札幌市役所との関係も良好で、まちづくりセンターや区役所の協力をとりつけるのに役立っている。公務員としてのキャリアを活かして、退職後も市民の側から市政の運営に貢献できる好事例であろう。実際、「公務員のみなさんは退職後はNPO活動をすることをすすめします」と下川原さんは語る。人が人を呼んでヨコの関係をつむぎながら地域交流を広げていく活動は、役所とは勝手が違うが楽しく頑張れるフィールドとなっているようだ。

◇ 誰もが楽しく地域で共生できるように

実は、同じ屋根の下にもうひとつのNPOが活動をしている。介護保険事業を行う「NPO法人みなば」の事務所である。「みなば」はアイヌ語で共に笑うという意味で、誰もが地域の中で楽しく共生できる社会をめざす。居宅介護支援事業や訪問介護サービス、障害福祉サービスの提供を行っている。二年前に発足し、あいなびと二人三脚で活動している。介護保険制度の枠組みにより両者の役割はきつぱりと分けられるのだが、目指すところはひとつ、障がいがあってもなくても、赤ちゃんとお年寄りまで、生まれ育った地域の中で、楽しく共生できる居場所づくりをめざしている。

あいなびはボランティア団体と自任するが、事務所を構え車両を維持するための費用など支出は多い。活動開始時に公庫融資を受けて車を購入し

たほか、北海道NPOバンクからの融資などで運転資金をまかなってきた。活動年数の経過とともに車の修理費もかさみ、一口五〇〇〇円のあいなび福祉車両維持基金



スタッフのみなさん。あいなび事務所前にて

への寄付受付も始めた。二〇一一年秋に、福祉有償運送事業のドライバーに対する国土交通省認定講習の実施機関となり、毎月開催する講習は新たな収入源として期待されている。

いずれは、現在の「くるみな」サロンを発展させて、地域の誰もが気軽に利用できるサロンの施設をつくりたいと下川原さんは夢を描いている。保育園や高齢者デイサービスや障がい者デイサービスなどが同居し、誰でも気軽に入れる喫茶店や新鮮な野菜を賣る産直市などの機能をあわせもった施設を作りたいと考えている。

◆ NPO法人さつぽろ福祉支援ネットあいなび

所在地 札幌市南区南34条西11丁目2-12

TEL 011-582-18982

WEB <http://www.plata.or.jp/ainabi/>